

今日は「イフウフノ日」である。もう八日すれば結婚四十八周年。イイ日もワルイ日も紙一重。気の持ちようで、どっちかになる。実際痛みの始まった十年前の日々は節夫への申し訳なさや、恨みで潰れそうだった。状況は別に何も変わっていないのだから、精神の持ち方や気分は多分に自分が作り出すものなのだろう。それにしても、痛みはいったん記憶機能が覚えれば逃げて行ってしまう。神経ブロックでも駄目だったし、今年二月に大阪医大の神経精神科で受ける寸前までいった電気ショック療法も、結局無効だったと思う。電気ショック療法では、高校同期生で作るMLでも皆さんに知らせ、旧高知医科大脳神経外科名誉教授の森惟明さんからも明確な反対のご意見を頂いた。治療を諦めた時点で、痛みの増幅には一人で対峙するんだ、とあらためて決意した。どんなに痛くとも、垂れ流しで節夫に訴えるのは信条に反する。しかしイフウフノ日も呻吟するのは、神さまつらいですね。

しかし、きのうは一日早いイイ日になった。「今日は何処で食べよう」と相談し、御所の近くにある和牛で有名な「はふう」に行った。「はふう」の意味は聞くことを忘れたので判らない。で、何を注文したか？カツサンド。カツは胸にもたれそうで、もう二十年くらい口にしたことがない。阪神タイガースのファンは、試合の前にカツ丼を食べるそうだが、ご放免でやってきた。しかし、きのうはこれがお目当てである。一人前千八百円。結構な値段の上に、カウンターの目の前に解禁されたばかりのボジョレヌーボーがハーフボトルで置かれている。「ボトルも頂きます」って、もうあと先見ない年金夫婦だ。カツサンドは、肉が減法柔らかく美味であった。全部平らげた。「ダイエツト懐ばかり薄くなり」なる川柳を思いだす。発病以来約十六キロ太った。薬(特に漢方の芍薬

甘草湯)の副作用のせいが大きいだろうが、食べたあとの運動不足も否めない。さてさて、カツサンドの行方は？

百天さんの治療を終え帰宅したら、こーちゃんの通う茨木市立彩都西小学校の中村亀雄校長先生からのメールが入っていて欣喜雀躍。どういうことか説明をしよう。先に書いた高校同期のMLで、今リレーメールと名づけ、順次自分の身の回りを紹介するパトン渡しが行われている。わたしの番が来た。日頃騒がしくMLする常連と見られている。音楽や映画や靖国問題などを語って来た。だが、一番の関心は我が孫彩都西小一年生のこーちゃんである。そこで、日頃とは異なり、稀代の子供好き、植物好きと思われる中村校長先生から送られてくる毎日のweb日記通信のことを紹介した。とにかく毎晩数枚から十枚の写真がくる。そこは校長先生(個人情報ならみもあるだろう)で、児童の顔は正面からは決して撮らない。だから、わたしは一年二組の写真が来ると、なんとかこーちゃんでないかと体をよじって眺める。目下の最大の楽しみはweb日記を開くことである。

そういう日々を同期のリレーメールに入れたら反響があった。特に学童の総合学習活動への援助もしているNPO・CVVに属している金山正吾さんから「是非校長と会いたい」と言ってきた。待ってましたである。今月十日、単刀直入にお手紙を中村先生に出した。返事を待ちかねていた時に、昨夜「三学期の総合学習でお願いしたい」との返信メールだったのだ。すぐに金山さんに転送し、早速先生に「面談をお願いしたい」のメールを入れて下さった。彼も手、いや行動が早い!!! これで、来年への生きる希望が沸いた。おかげさだが、本当にそう。金山さん、有難う。